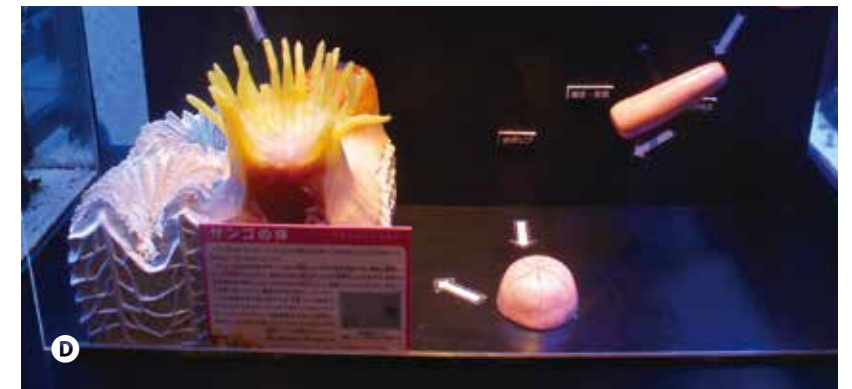
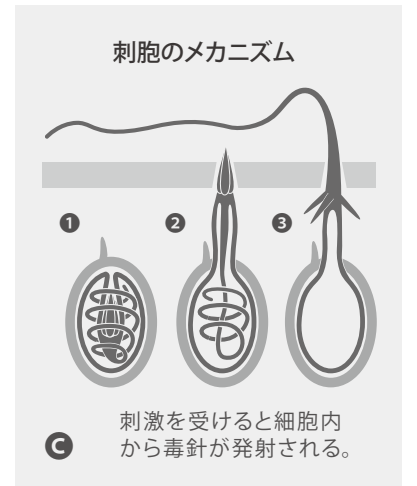




協力：いおワールドかごしま水族館
※写真は同館にある鹿児島のサンゴ礁を再現した水槽



竹島

白化したサンゴ

サンゴは三島や南方の海の他に、
B 冷たい深海や、東京湾などにも棲んでいる。触手や口や内臓、神経や筋肉をもつ動物で『刺胞動物門』というグループにあたる。同じグループのクラゲやイソギンチャクのように**C** 刺胞（しほう）という毒針ももっている。

D サンゴの赤ちゃんは柔らかい肉質で、成長して石灰質の硬い骨を形成する。**A** その骨格は、枝状、塊状、葉状、テーブル状と様々で、多様な生き物の家になっている。そして、サンゴの体内には褐虫藻（かつちゅうそう）という藻類が棲んでいて、互いに栄養を与え合う共生関係をもっている。サンゴの色はこの藻類の色でもある。

また、サンゴ礁は地形の名で、サンゴなどの遺骸が堆積してできた地形のこと。サンゴ礁のある地盤が上昇して、海面上に現れたサンゴ礁を、離水サンゴ礁や隆起サンゴ礁などと呼び、この地殻変動で生まれた島はトカラ列島、先島諸島までの琉球諸島でよく見られる。

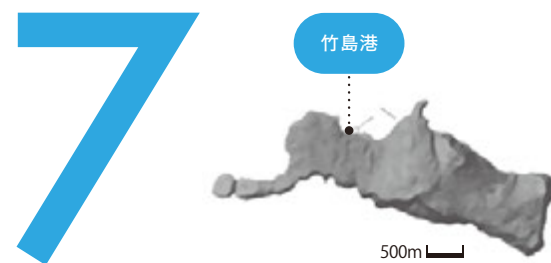
地球の現象に関係深いサンゴは、1990年代から地球温暖化の影響を受けている。温暖化で海水温が上昇して、褐虫藻がサンゴの体内から出てしまうのだ。褐虫藻の喪失でサンゴは色は無くして白化し、栄養も不足して死んでしまう。

E 竹島ではここ数年、一時的な白化の現象が続いている。2020年、国連は温暖化が進めば、今世紀終わりには全てのサンゴ礁で白化が起これと報告した。サンゴ礁を失えば、褐虫藻の出す大量の酸素も失われる。

思い出話

「2016年から水温が上がると、サンゴが一時的に色を失っています。病気に見えて気持ち悪いです。」

竹島地区 40代 男性



7